

集落支援に携わるに当たって 必要な基本視点

島根県中山間地域研究センター
有田昭一郎

【自然科学】

キノコ・特用林産

鳥獣被害対策

育林

木材加工

【社会科学】

コミュニティの構築・運営

移住・人口対策

スモールビジネス

～中山間地域を総合的に研究する機関～

島根県中山間地域研究センター
(1998年4月～)



1. 集落支援の仕事

↓ 支援、エンパワー

集落
(自治会)

地域運営
組織

NPO等

調査

- ・地域の巡回と聞き取り調査
- ・アンケート調査

分析

- ・地域課題の整理
- ・地域資源の発掘、整理(空き家情報の把握、地域資源アーカイブ)

計画
策定

- ・住民の話し合いの支援(グループワーク切り盛り)
- ・地域計画の策定支援

活動
企画
実施

- ・地域活動の企画支援
- ・地域活動支援
 - ・介護予防のための高齢者サロン
 - ・文化伝承
 - ・空き屋活用、移住支援
 - ・特産品開発、販売 etc

マネ
ジメ
ント

- ・実施組織の運営支援(事務局)
- ・情報発信
- ・地域の情報の住民間での共有(広報誌)
- ・中間支援組織の事務局 etc

2. 地域づくり支援に関わり、現場で頂くご質問

①“地域課題の把握”というが、何をどう把握したら
よいか

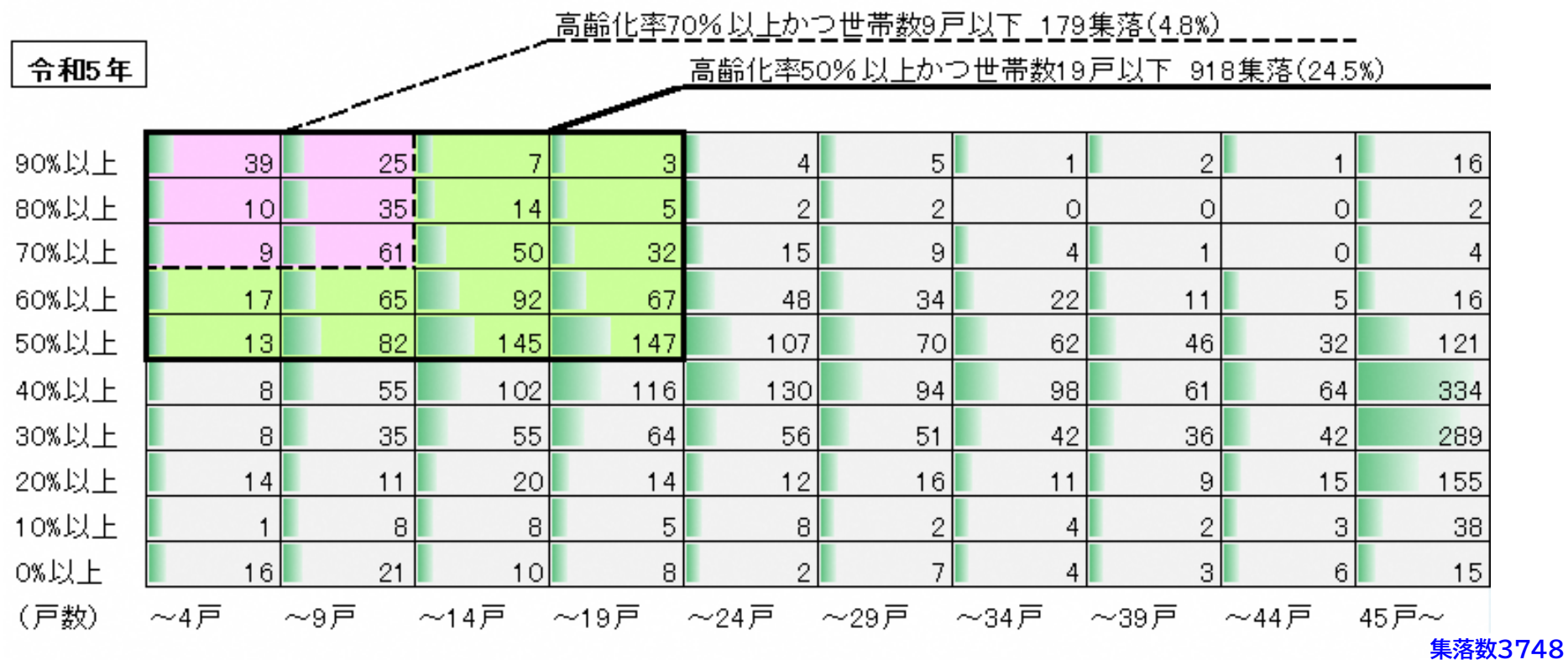
②沢山ある地域課題、地域からの要望の中で
何から取り組んだらよいか

③どうしたら住民のみなさんと必要な活動をおこ
せるか

etc

3. 集落支援(地域づくり支援)の基本視点

①背景 多くの集落では高齢化と担い手減少が進む

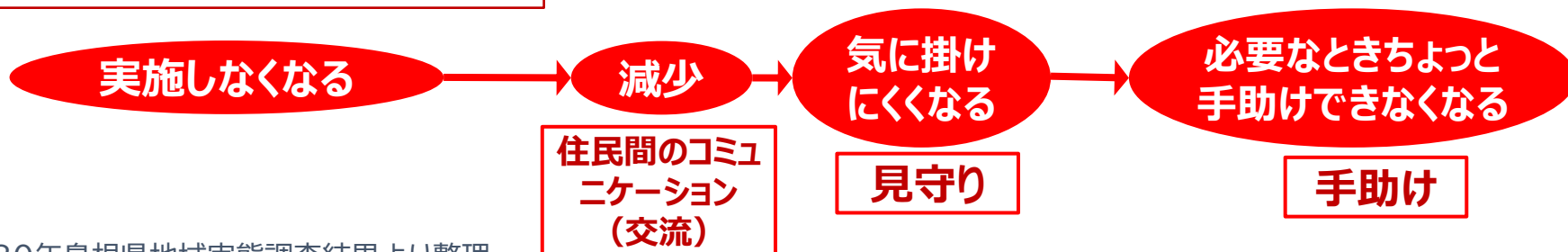
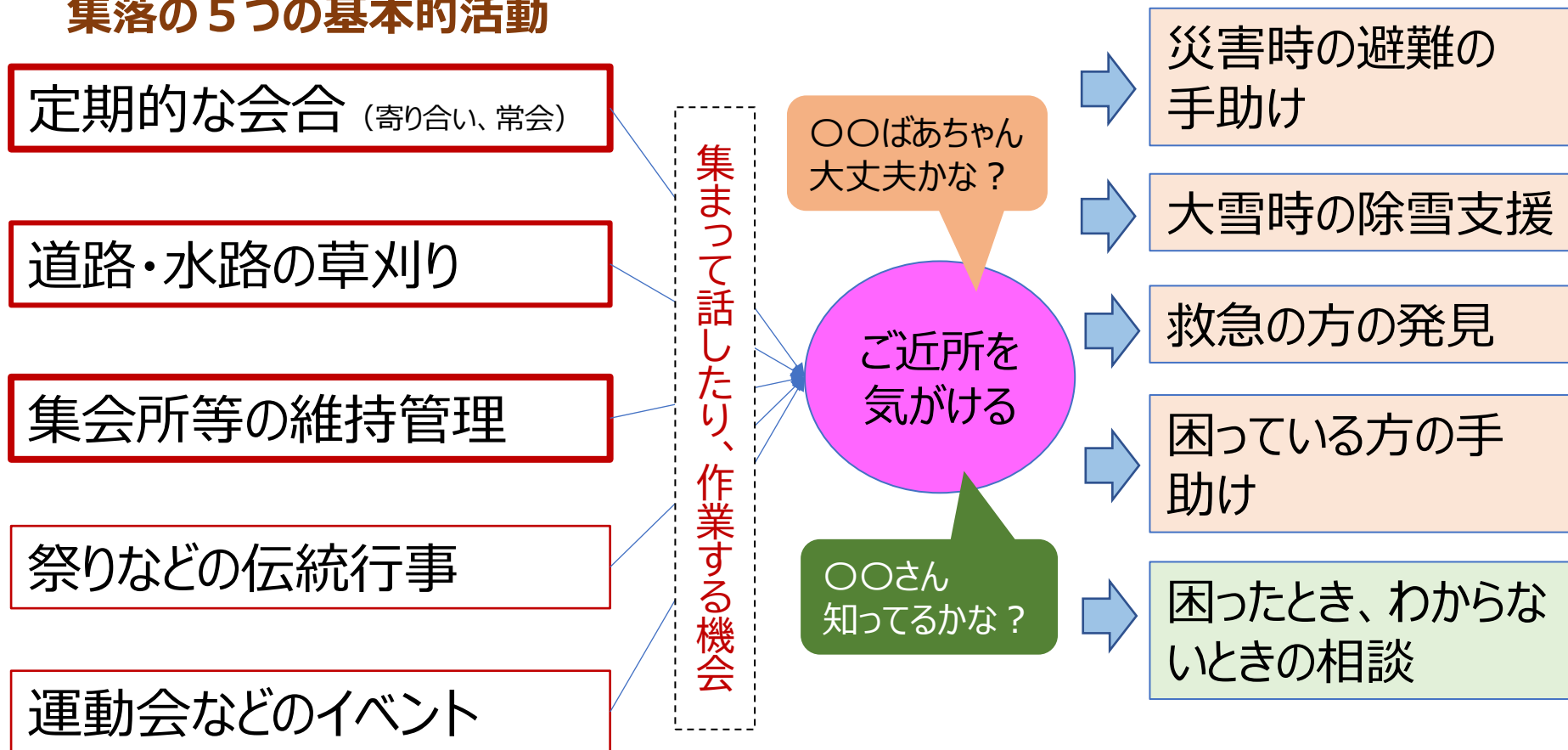


	2014年	2018年	2023年
高齢化率50%かつ世帯数19戸以下 (小規模高齢化集落)	536 集落 (16.0%)	739 集落 (21.4%)	918 集落 (24.5%)
高齢化率70%かつ世帯数9戸以下 (超小規模高齢化集落)	77 集落 (2.3%)	118 集落 (3.4%)	179 集落 (4.8%)

資料:平成30年、令和5年島根県地域実態調査結果

②集落の小規模高齢化で起きる根本的問題

集落の5つの基本的活動

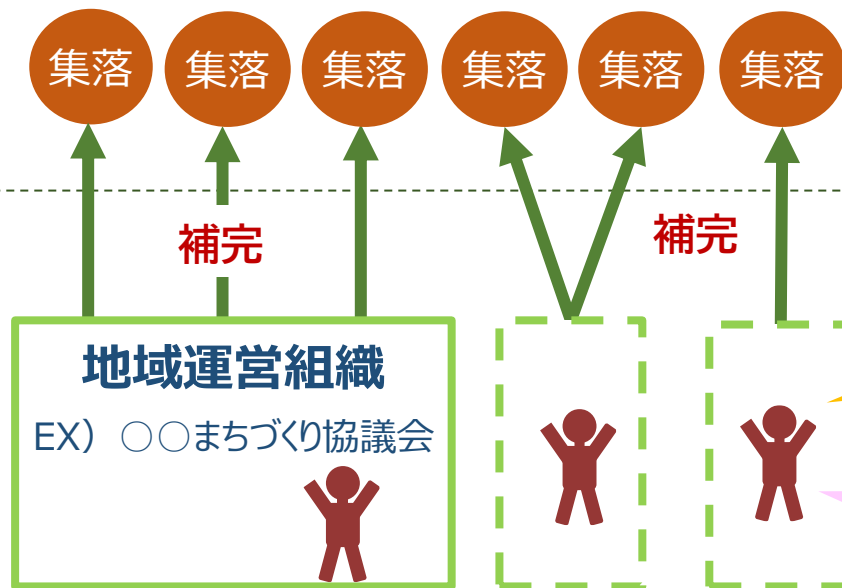


③集落支援(地域づくり支援)の押さえ処

《自治会》
《集落》
《小学校区》
《公民館区等》

集落の小規模高齢化の進行

住民間コミュニケーション減少⇒身近な見守り力の低下⇒ちょっとした手助け力の低下



■低下する「見守り」の補完

■減少する「住民間コミュニケーション（交流）機会」の補完

集落支援員

暮らしに必要な生活サービスの確保

- 移動手段（デマンドバス等）
- 生活機能（買物場所、病院サービス、子育て・教育サービス、福祉サービス etc）
- 住宅、産業インフラ etc

《まち全体》

④様々な支援活動を見守りと交流に繋げる

様々な地域課題、活動支援の要請



- ・地域の巡回と聞き取り
- ・配食サービス
- ・防災、防犯活動
- ・水道検診
- ・新聞配達
- etc

既存活動の充実
新たな活動おこし



集落支援員

- ・介護予防サロン
- ・趣味グループ、サークルの支援
- ・文化の掘り起こし、伝承
- ・地域食堂
- ・特産品づくり、直売所の運営
- ・移住支援
- ・広報誌、SNS
- etc

波及



見守り

波及



住民間コミュニケーション(交流)

補完



低下する集落機能
暮らしの安心感

4. 地域づくり支援に携わる際の基本的なノウハウ

①『地域課題の把握というが、何をどう把握したよいか』

ア 支援する地域の客観的状态を捉える

○集落の高齢化率

- ・50%を超えているか:50%を超えると集落の基本活動実施率が低下傾向

○集落の基本的な活動の実施の有無

- ・ A 定期的な会合(寄合、常会等)、B 道路・水路等の草刈、C 交流活動が実施されているか :これらの活動が実施されなくなると共助力低下

➡高齢化率が高くて、かつ基本的な活動が実施できなくなっている集落の特定

イ 地域課題の把握 ～アンケートか、聞き取り調査か～

A まずは、高齢世帯の聞き取り調査から

- ・高齢化が進み、基本活動ができなくなっている集落から開始
- ・調査そのものが、次の活動に向けた住民との関係性づくりであり見守り活動の第一歩(アクションリサーチ)

B アンケートの実施は？

○必要性がある場合に実施を検討

- ・地域の取組の効果を検証したい
- ・世代間での当たり前感やニーズの違いを可視化したい 等

○アンケートを実施する場合

- ・聞き取り調査を踏まえ仮説を立てる → アンケートで仮説を検証
- ・アンケートは最大4ページ程度 … オンライン回答も用意
- ・定期的な実施を検討 “定点観測する事項(設問)” + “その時期に聞いておきたい事項(設問)”

(参考)住民アンケート定点観測設問 例

「はい」等回答割合の
変化を確認

	はい	いいえ	わからない
災害時や災害が起きそうなときに、避難所や安全な場所に避難できますか			
〇〇地域の中で、普段使う食料や日用品の買い物はできていますか			
〇〇地域の中で、灯油が購入できていますか			
病院に行く際、不便を感じていますか			
困った時に気軽に相談したり頼んだりできる人や窓口がありますか			
気軽に立ち寄って話ができるような「集いの場」がありますか			
地域での鳥獣被害対策が充実してきていると思いますか			
出身者や地域外の人との関わりが増えてきていると思いますか			
子育て世代の暮らしを地域で支える機会や場面があると思いますか			
集落の役の負担軽減に向け具体的な話を進める必要があると思いますか			
地域の暮らしを守る活動に参加したいと思いますか			
今後も〇〇地域に住み続けたいですか (中学生、高校生の方は、将来、〇〇地域に帰ってきたいと思いますか)			
〇〇地域が好きですか			

②『沢山の地域課題、要望の中で何から取り組んだらよいか』

必要性の高い活動の把握



- ・配食サービス
- ・防災、防犯活動
- ・ゴミ収集
- ・水道検診
- ・新聞配達
- etc

既存活動の充実
新たな活動おこし



集落支援員

- ・介護予防サロン
- ・趣味グループ、サークルの支援
- ・文化の掘り起こし、伝承
- ・地域食堂
- ・特産品づくり、直売所の運営
- ・移住支援
- ・広報誌、SNS
- etc

波及



見守り

波及



住民間コミュニケーション(交流)

補完



低下する集落機能
暮らしの安心感

地域巡回、聞き取り調査
(高齢化集落、高齢世帯から)



③『どうしたら住民のみなさんと活動をおこせるか』

ア 高齢化した集落や高齢世帯の聞き取り調査が第1歩

- 聞き取り調査を通して、住民に顔を覚えてもらう（活動の素地づくり）
- 聞き取り調査を通して、住民や関係団体と協働関係をつくる
 - ↓調査の企画に助言をもらったり、一緒に検討する場面をくる
 - ※役場地区担当、地域運営組織スタッフ、地域包括ケアの生活支援CD、社会教育 等
 - ↓小さくてもいいので、一緒に調査を行う場面をつくる
 - ↓簡単でいいので調査で感じたこと等を意見交換する場面をもつ
 - ↓活動支援を企画し、つくり助言や助力を相談する

イ 活動を開始するにあたって

- 必ず活動期間を設定（3年等）、継続の是非はみんなで判断
- 補助金を使う場合は、基本、ランニングコストでなく、補助終了後の活動継続の体制づくりや試行の資金として利用
- 担当が変わっても効果がある程度持続する支援方法を考える

まとめ

○集落支援の押さえ処 地域活動→「見守り」と「交流」への波及

○「聞きとり調査」は支援活動の大切な第一歩

○活動をおこすときに重視すること 2点(P12)

○さらにもう一点 ……

調査を行う場合は、できるだけ簡易に、かつ定点観測データとして蓄積できるよう(引き継がれるよう) 意識する

- ・集落の高齢化率
- ・集落の基本活動の実施の有無
- ・高齢化した集落、高齢世帯の聞き取り調査結果
- ・アンケート調査(定点観測する基本質問+トピック質問)